

## 共通課題に対する会員の意見

第一回研究会における島崎報告（報告要旨は研究通信60号所載）に関連して、山本陽三、島田隆の両氏からつぎのような意見がよせられています。

山 本 陽 三

「村落構造の変化に対する推進力」のなかの大きな部分は、農民自身のなかにあるというのが現在の私の心境です。心境ですから実証されてはおりません。農民組合は、この農民のなかにある推進力を引き出し組織しようと努力しているものと思います。その限りにおいては賛成ですが、その方法については疑問があります。自分の作った米の生産価格も、生計費も知らない農民の米価斗争は信用もできないし意味もありません。

「部落の空洞化」あるいは「ムラの解体」という表現も全く賛成できません。こういった発想は、日本の農村で個別経営が普遍的だという幻想に災いされてはじめて出てくるものと思います。アゼ草の刈り方一つで隣の田に影響のある日本の農業経営に、いわゆる個別経営など存在しないといっても、さほど乱暴な言い方ではないでしょう。もっとも養鶏とか養豚とか施設園芸といった農地の広さで経営を判定するのではなく、投資の額で営農規模を測れるごく少数の経営はべつとして。

自立経営農家は育成といったことを言う農林省のおかしさと同じくらいに「ムラの解体」という発想は、若し農家その農業経営を中心にすえて観察すれば、理解し難い発想と思います。いわゆる社会学の踏査でムラの諸制度が解体し、農民意識や生活の様式がいささかの都市化を示したからといって、それが農業経営のどこに表現されたかということが明らかにされぬ限り「ムラの解体」などという言葉は軽々しく使えたものではありません。

それは、周知のように、農家には、家計と経営という二本の柱があり、その各々を当代の政治、経済、技術といったものとの有機的な連関のもとで、より合理的に運営する「しくみ」として、農村の社会関係が自づと——ときには権力の力で——結ばれ、その諸関係が時間とともに社会制度として形成されております。とすれば社会学が、社会の諸制度や、その制度の許で形成された農民の意識や生活様式を問題としながら、その制度や意識の農民にとってもっとも重要な表現である「農業経営」という行動様式のみを除外している

ことは、どう考えてもなっとくのいかないことです。

このように考えると、若し「ムラ」が解体していれば、それはなによりもまず農家の経営のなかで発見されねばならず、「部落が空洞化」しているとするれば、それもなんらかの形で農家の経営のなかに表現されていなければなりません。もっとも、「解体」が村落構造の変貌、住民意識の変容、そして生活様式の変化という筋道で進むと仮定すれば（順序は変わるかも知れないが）その先に経営の近代化というか変化を読みとらねば、この因果関係が円環として相互作用の関係にあるとはいえないのではないかと思います。

つまり、逆から云えば、ある部落のある農家の経営と家計の社会経済（営）学的分析から、その経営者の意識も、村落構造すらも見事に把握することもできなくはないと思われれます。

従って本年度のテーマ「村落構造の変化」というテーマも、農家の農業経営の中でも捜すという視点も重要かと思えます。そうしてはじめて推進力の一重要ファクターとして、農民意識の変化——農民の側から言えば自覚——つまり資本主義経済機構というものの理解度、実践度といった分析指標が産れてくるのではないでしようか。

これまでのいわゆる社会学的な意味での諸制度、農民意識、行動様式の変化のみをもって村落構造の変化とみなし、その「推進力」を捜すという考え方は、どうも中途半端な気がしてなりません。それは、農業経営こそ、村落構造、農民意識のもっともはっきりした可視的な表現形態であり、従ってすぐれて社会学的事実であると思ふからです。

昭和四十三年度大会の「共通課題」について研究通信六〇号拝読しました。共通課題は、最低線、四十二年度の「村落構造の変化」に対する推進力」をつづけてもいいと思います。ただ、その「推進力」を重視するのあまり、「村落構造の変化」という基本問題をおろそかにしないように気をつけたいものです。推進力が、商品生産であれ、政策であれ、また農民運動、あるいは指導者であれ、村落構造の変化から生れ、それをさらに変化せしめていく要因として、大きくはすべて構造変化として論究する方向をとりたいと思います。島崎報告を拝見しても、農民組合、農村労組の組織が農民層分解の精密な理解を必要とすること、また農民運動にとって「部落」の科学的な把握を要することが感じとられ、このことは構造的把握を精密にしないでは、推進力としての「農民運動」の研究がすすまないことを思わせるようです。とすれば、次に当然のことですが、事はすべて広い意味で歴史的变化の相のなかで考えられねばなりません。昨年、委員会で智恵をしぼられた課題に対して、新しい課題を提案する余裕は、今ありませんが、ただ前記のように、村落構造の変化を中心課題として、広く歴史的に追求できるようなテーマにしたいものです。とりあえず共通課題の内容についてだけ、希望いたします。